

紹介

「第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会」 共同記者会見を開催

令和4年7月7日(木)、福岡県庁特別会議室において、本年11月11日から13日まで福岡県において開催される「第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会」に向け、大会主催者である公益社団法人 日本獣医師会と開催地自治体である福岡県、福岡市の3者による共同記者会見が行われた。

会見の中で藏内会長 (FAVA 副会長 (次期会長)) から、「新型コロナウイルス感染症は、コウモリが感染源とされていますが、エボラ出血熱、重症急性呼吸器症候群 (SARS)、中東呼吸器症候群 (MERS)、新型インフルエンザ等の新興・再興感染症は全て動物由来の人獣共通感染症であり、私たちの大きな脅威となっています。このような中で、人と動物の健康と環境の保全を一体的に捉えて対処する『ワンヘルス』の普及と実践が世界で注目を集めています。福岡県におかれては、全国に先駆けて『ワンヘルス推進基本条例』を制定されるなど、県民をあげてワンヘルスの実践活動に取り組んでおられます。第21回 FAVA 大会は、そのテーマを『アジアからのワンヘルスアプローチ』として開催いたします。本大会は、ポストコロナ時代の幕開けとして、また、日常生活や経済活動の再出発を期す記念すべき国際大会として、必ず成功させたいと考えています。私は、本大会が獣医療や医療関係者をはじめ、多くの一般市民の参加を得て成功裏に開催されることを契機として、今後の感染

症対策のキーワードとなるワンヘルスの重要性をアジア、そして世界に向けて広く発信して参りたいと考えております。」と述べられた。

会見では、高島宗一郎福岡市長から、「福岡市はコンベンションシティとしてさまざまなイベントを開催してきましたが、この2年間は新型コロナウイルス感染症のために開催できませんでした。新型コロナは収束しても、また新しい感染症が出現します。その意味で、新興・再興感染症に対する『ワンヘルス』の実践活動の成果を、福岡の地から国内外に発信されることを大いに期待し、感謝しています。」と述べられた。

また、服部誠太郎福岡県知事から、「私は、県政におけるチャレンジとして『ワンヘルスの推進』を掲げています。本県は全国で唯一『ワンヘルス推進基本条例』を有しており、『ワンヘルス』の世界的先進地を目指しています。」と述べられた。その後、人と動物と環境、それぞれが生態系の中で相互に密接につながり、支え合っていることを表し、また、クリーンで明るい色使いとし、健康で健全な状態を次の世代に継承していこうという希望を込めて作られた「ワンヘルス」のロゴマークが発表された。

第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会への多数の皆さまのご来場をお待ちしています。



左から高島宗一郎福岡市長、藏内勇夫日本獣医師会会長、服部誠太郎福岡県知事、マスコットキャラクターの「ワンヘルスぼうや」



ワンヘルスのロゴマーク